「金融問題研究会」

―― 半世紀にわたる産学協同を支えた沈晩燮先生 ――

中京大学大学院経済学研究科長
東海総合研究所　理事長
経済学博士　水　谷　研　治

沈晩燮先生に初めてお会いしたのは四十数年前である。沈先輩のゼミは我々のゼミとは言わば兄弟関係にあり、恩師・塩野谷先生を通じて、長いお付き合いが始まった。

金融論を専攻された沈先生は当時の最先端であるガーレイ・ショウの理論を研究されていた。その後、東海銀行における「金融問題研究会」を通じて直接お教えを受ける機会が本格化した。

「金融問題研究会」は塩野谷教授と東海銀行の金子副頭取が学友であったところから、1950年頃に始まり、半世紀にわたって続いている。山崎研治先生、水野正一先生、上野裕也先生をはじめ、いわゆる塩野谷一家と東海銀行の調査部員による研究会である。研究会では大学院生であった１年先輩の飯田経夫先生、沈晩燮先生、ゼミの同級生であった木村吉男先生、同期の松永先生が活発な議論を交えていた。

その後、若い優秀な研究者を加えることになり、愛知大学の奥野教授、名古屋市立大学の内藤教授、名古屋大学の竹内教授、足立教授、松阪大学の相原教授、中京大学の白井教授などの俊英が集まった。

この間に名古屋大学の先生方として藤井教授、真継教授さらには現在、中京大学におられる千田教授が重鎮として参加され、最近では、さらに奥村教授や家森助教授も交え、いっそう多彩な顔ぶれとなっている。

「金融問題研究会」はいわゆる産学協同の研究会である。当初は名前のように金融問題を学問と実務の両面から研究し討議する場として毎月開かれていた。しかし、間もなく、その枠を越え、大学を越え、分野をまたがって、気鋭の若手を集めることになった。その結果、前述のように理論経済に始まり国際経済、経済政策など多くの分野の優秀な学者が参加するようになったのである。

その活動は多岐にわたっているが、多くの人を育てた点は特筆されてよいであろう。東海銀行の出身者で学者として活躍する人は神谷博士、二村博士、上領博士、鐘ヶ江博士、岡博士をはじめ18名と多く、来年度にはさらに２名増加するはずである。それは日本銀行を含めた我が国の銀行界の中でも屈指の水準を誇っている。

筆者が東海銀行の調査部長をしていた９年間も含め、長い歳月にわたり「金融問題研究会」を力強く支えてくださったのが沈先生であった。若手の議論が先鋭化するのは当然のことである。そのような場合に沈先生は持ち前のムードで雰囲気を和らげる役割を果たしてこられた。苦労人であるところから、何かと世事に疎い我々の面倒を見てくださった。

お付き合いは昼間だけではなかった。お酒が一杯入った後の諸先生方の裏話は門外漢の筆者には驚愕するばかりであった。沈先生を国立大学である名古屋大学の助手にすることで文部省を説得するのに苦労したと塩野谷教授がしみじみと語っておられたのが思い出される。

お酒の席で沈大人は漢学の素養を発揮され、さりげなく人生について語られることがあった。それは貴重なお教えであり、当初から筆者が沈先生を尊敬してきた所以である。

それだけに沈先生は根っからの文科系の学者と思っていた。ところが旧制の第三高等学校の理科に入っておられたのを知って驚いた。

沈先生が明倫中学校の出身で先輩に当たることも当初は知らなかった。現在、沈先生の研究室を筆者が引き継いで使わせていただいている。これもご縁であろう。

人生の大先輩である沈大人のご冥福を心からお祈り申しあげます。